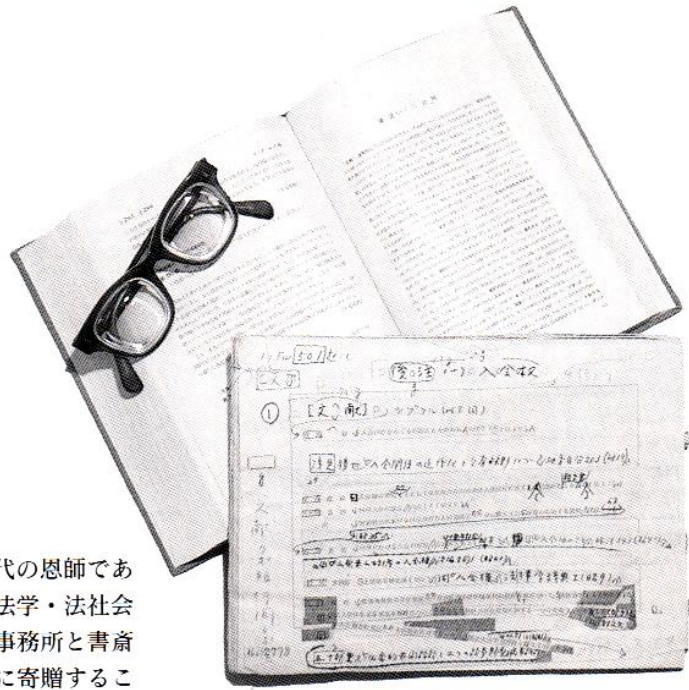


札幌大学と 川島文庫

内山尚三



川島武宜共編「注釈民法 7 物権 2」
(有斐閣 初版 昭和43年刊)とその原稿です。
眼鏡は、川島武宜博士が、愛用していたものです。

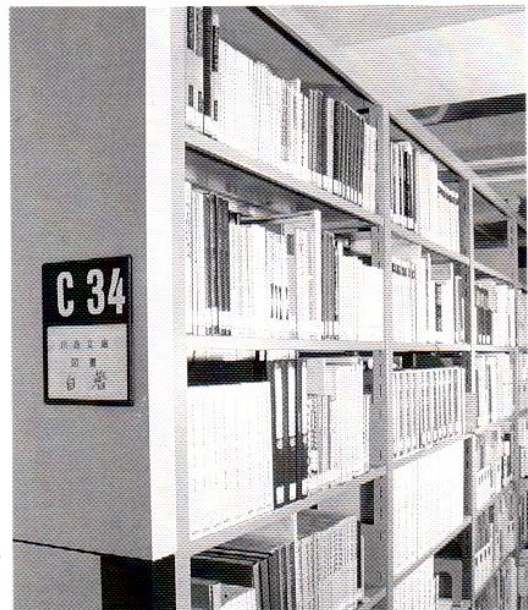
1992年の2月下旬に、私の東大時代の恩師である川島武宜博士(東大名誉教授・民法学・法社会学・文化功労賞受賞者)から、法律事務所と書斎にある蔵書など全部を、札大図書館に寄贈することに、家族と相談して決めたからと電話があった。私は、先生の膨大な蔵書は、学界のためには、東京の大学に寄贈される方がよいのではないですかと、申し上げたところ、いろいろ考慮したうえで決めたので、変えることはできないと強く言われた。このような次第で、私たちの図書館に、先生の全蔵書が寄贈されたのである。私の札幌行きには消極的だった先生だが、「本当の民主主義のためには地方が大事」という、私の主張を分かってもらえたと大変うれしく思った。

わが国を代表する法学者の足跡を知る貴重な資料を、一ヶ所で保存することは、おおいに研究上の意義があるとともに、北海道では、北大をはじめ戦前には法学部が設けられていなかったため、法学研究のための文献や資料が十分とはいえず、この空白を埋めることもとなり、学生にとっても、先生の業績に直接触れることで、学問的な刺激が大きいと判断し、ご寄贈いただくこととしたのである。

ご寄贈頂いたものは、図書、雑誌類だけでなく、各審議会資料、学会資料や、多くの研究ノート、メモ類、原稿、訴訟記録、スクラップ類など広い範囲にわたっており、いずれも学界の貴重な資料である。

札幌大学では、これらの蔵書を公開することによって、法学のみならず、他の社会科学の発展のためにも、寄与したいと希っている。平成6年3月には、図書館職員の献身的な努力によって、図書、雑誌類の整理が終了し、一部公開にこぎつけている。残る資料類等の整理も、今年度中には完了させ、「文献目録」を刊行し、本学に課せられた責務を果たしていきたいと考えている。

(札幌大学学長)



書庫に並ぶ川島文庫所蔵図書：川島文庫の蔵書数は、平成6年3月現在、図書7,212冊(和書6,179冊、洋書1,033冊)、雑誌407誌となっています。